

アサリの生産安定化に関する研究

(アサリ生産安定化総合研究)

(予算区分 県単独 研究期間 平成14～17年度)

担当：水産試験場浜名湖分場

【研究の背景とねらい】

- ・アサリは浜名湖内で最も生産量及び生産金額が多い最重要種です。浜名湖のアサリ漁獲量は昭和57年の約8千トンから大きく減少し、近年では2～3千トンと低迷しています。
- ・そこで、浜名湖のアサリ資源の安定化を図るため、アサリの資源状況、漁場環境を把握し、減少原因を究明し、資源の回復手法について検討しました。

【研究成果】

- ・アサリの漁獲が良好であった1987年と比較して、2001～2003年には漁場が湖南部から湖中部、湖北部へ移動したことが判明しました(図1)。
- ・これは、湖南部の潮流変化によるアサリ生息環境の変化と害敵生物ツメタガイの増加が原因ではないかと考えられました。
- ・湖南部のアサリ漁場10地点でツメタガイの生息密度調査を実施したところ、平成9年は1.2個/m²でしたが、平成15～17年には5.2～7.6個/m²となり、増加している傾向がみられました(表1)。ツメタガイによるアサリの年間食害量は約2千5百トンにも及ぶ可能性があると思われました。
- ・浜名湖のアサリ稚貝生息密度の変化を調査した結果、稚貝の発生密度は高いが生残率は低い水域や、発生密度は低いが生残率は高い水域がみられ、移殖による増殖の可能性が示唆されました。

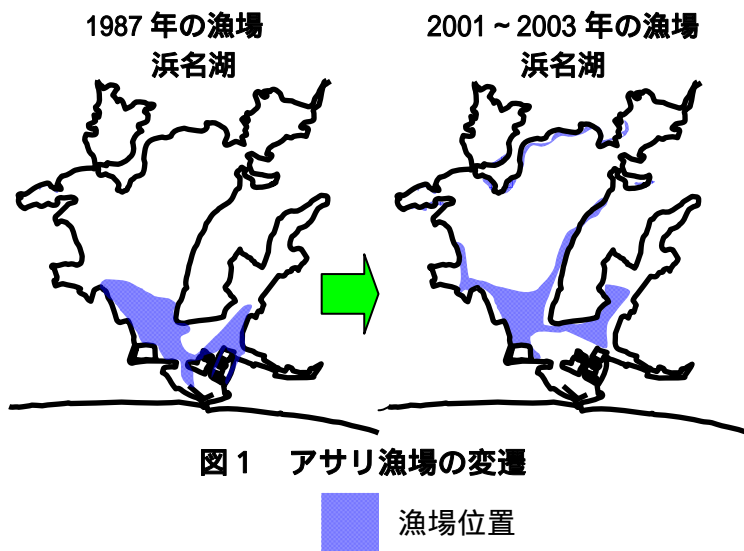


表1 湖南部の漁場におけるツメタガイの生息密度

| 年度 | ツメタガイ類 個/m ² |
|-----|----------------------------|
| H9 | 1.2 |
| H10 | - |
| H11 | - |
| H12 | - |
| H13 | 4.8 |
| H14 | 6.9 |
| H15 | 7.6 |
| H16 | 5.2 |
| H17 | 7.6 |

【研究成果の普及方法】

- ・好適なアサリ漁場が減少していることから、資源を有効に利用するため小型貝の保護など資源管理の強化やツメタガイの駆除を指導しています。
- ・採貝漁業者の実践により、現在ではアサリの漁獲量の回復傾向がみられます。
- ・今後、漁業者が実施している稚貝の移殖を効率的に実施する方法を検討するなど、さらに漁業者と協働しつつ、浜名湖のアサリ資源の回復に努めます。

(作成 平成18年4月)